

「未来社会はゆったり」とグリスロの著作者・三重野さん

新時代の公共交通として注目を集め、全国で普及が進む「グリーンスローモビリティ」(愛称・グリスロ)を特集した著作が5月に発刊された。タイトルは「グリーンスローモビリティ」小さな低速電動車が公共交通と地域を変える」で、編著者は国交省の三重野真代さんと交通エコモ財団。現在、出向で東大公共政策大学院の特任准教授を務めている三重野さんは『グリスロ』の名付け親でもある。

「グリスロのことを交通事業者の皆さんをはじめとする専門家の方々だけでなく、一般の人々にも知っていただければ、『グリスロっていいよね、こん

新時代の乗り物は「低速」で

な乗り物が増えてほしいね」と思っていただけだと考え、出版することになりました」と話す。

当時、三重野さんが在籍していた国交省総合政策局環境政策課では『グリーン』の冠が付く新たな事業を立ち上げる話を持ち上がっていた。「新事業にキヤッチーな名前を付けようということ、候補として『グリーンスローモビリティ』と『グリーンモールモビリティ』で悩みましたが、低速であることが最大の良さだと思い決めました」といふ。本の中でも、その誕生までの経緯が書かれている。

巻頭では、全国各地に登場したグリスロの写真を掲載、ドライブにもスポットを当てている。本の構成は「グリーンスローモビリティとは何か」から始まり、地域住民の足として、観光モビリティとして活躍するグリスロの姿を、それぞれの自治体や地元住民の声を交えながら紹介し、地域に根差した乗り物として愛されている様子が描かれている。



著作「グリーンスローモビリティ」を手にする三重野東大公共政策大学院特任准教授

発行は株式会社学芸出版社。電話0

75・343・0811